

第4回 阿賀野川自然再生検討会

資料

焼山地区ワンド再生の進め方について



阿賀野川河川事務所

平成25年10月

ご意見、ご提案

対応(案)

ゾーン区分 (利用、鳥等)

- ・エリアが広いのでブロック別に分けて考える
- ・野鳥が利用する空間など残す



- ・上流側を「ふれあいゾーン」、下流側を「自然環境保全ゾーン」とする。
- ・水辺の樹木は、一部を残す。

産卵場、湧水

- ・かつては奥の方で湧水が多量に湧いていた。
- ・イトヨが多く産卵していた。



- ・水辺の勾配は、ヨシなどが生えるよう1:5の緩勾配とする。
- ・湧水が観察できるよう、水中にも砂利を敷く。

釣り

- ・イトヨ、ヤツメ、ハゼ(グズコ)などの釣りがしたい。



- ・突堤(とつてい)を設置し、深い水深のところにも近づけるようにする。

水遊び(幼児)

- ・小さな子どもに遊ばせたい。
- ・大人が見通せるように草で覆われすぎない。
- ・木陰になるような木を残して欲しい。



- ・「ふれあいゾーン」では、水際に砂利を敷いて、草が茂りすぎないようにする。
- ・周辺の樹木のうち、高木の一部を残す。

ウォーキング, 散策路

- ・1周するウォーキングルートがあると良い。
- ・人が歩くようになれば、草が茂りにくい。



- ・発生した砂利を再利用して敷き詰め、散策路とする。

そり

- ・かつて、堤防でそり遊びをしていた。
- ・掘削で出る土を使って、斜面がつくれると良い。



- ・発生した土砂を再利用して堤防に腹付けし、そり等でも利用できるようにする。

駐車場

- ・車社会のため、どこかに駐車スペースが必要。



- ・工事ヤードを残すことで、工事後も駐車場等に利用できるようにする。

目立つもの

- ・訪れるきっかけとなるような、目立つものがあると良い。例、花畑



- ・国交省として直接整備をすることは困難である。ただし、地域の方が自主的に管理される場合は、可能な限り協力する。

焼山地区ワンド再生 整備方針図（案）

阿賀野市

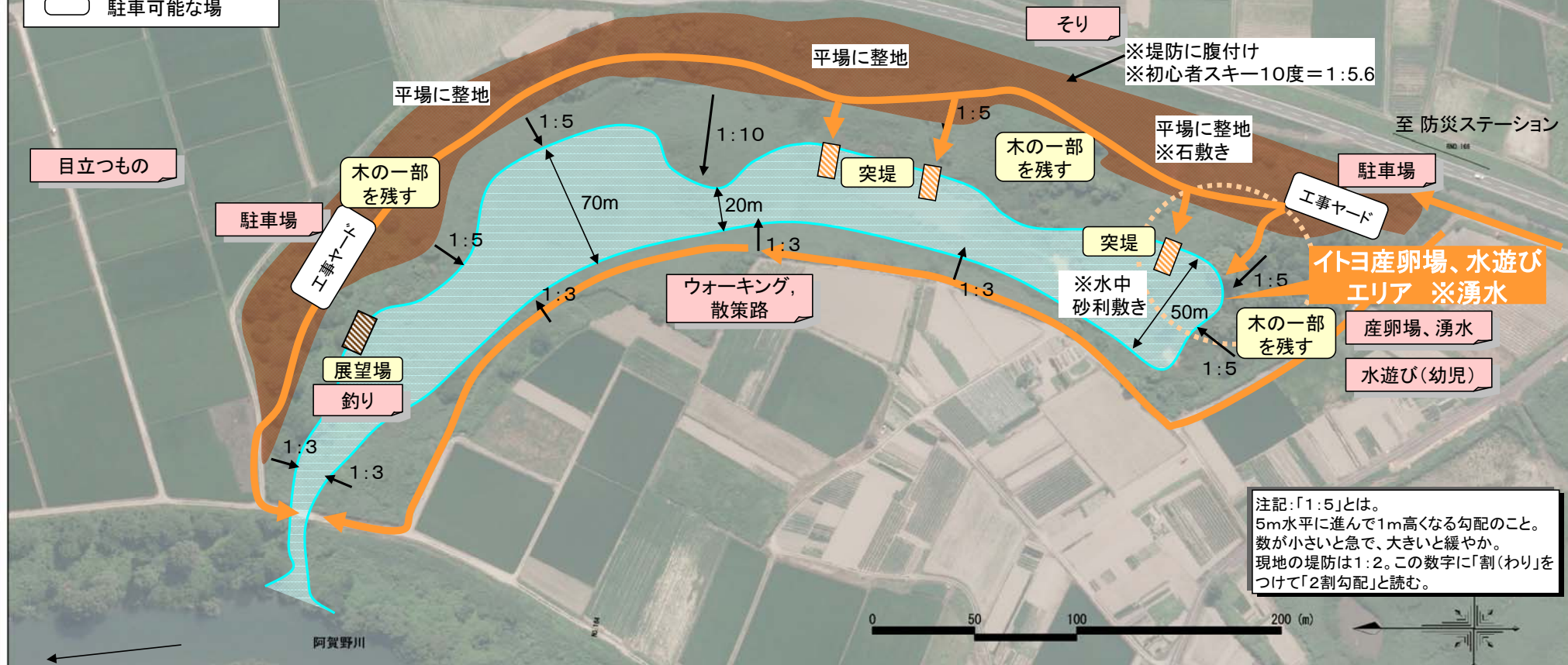
- 凡例
- 頂いたご意見
 - 散策ルート
 - 突堤(とつてい)
 - 展望場、船着き場
 - 駐車可能な場

ゾーン区分
(利用、鳥等)

勾配は、基本1:5とする。
植生保全ゾーンは1:10

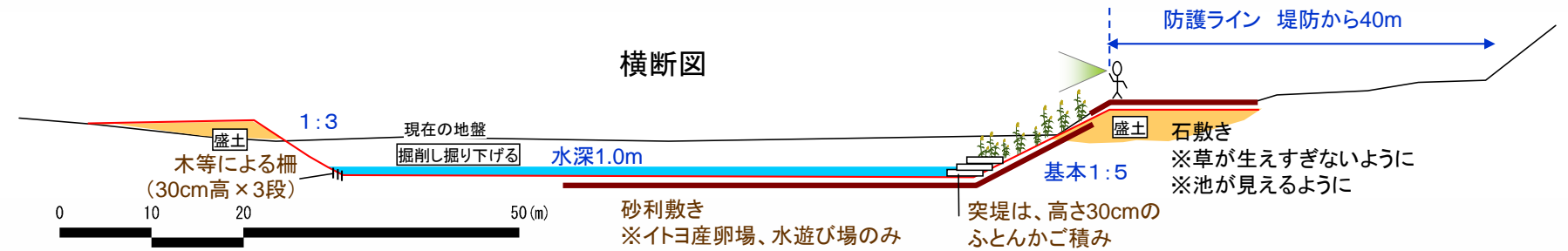
自然環境保全ゾーン

ふれあいゾーン



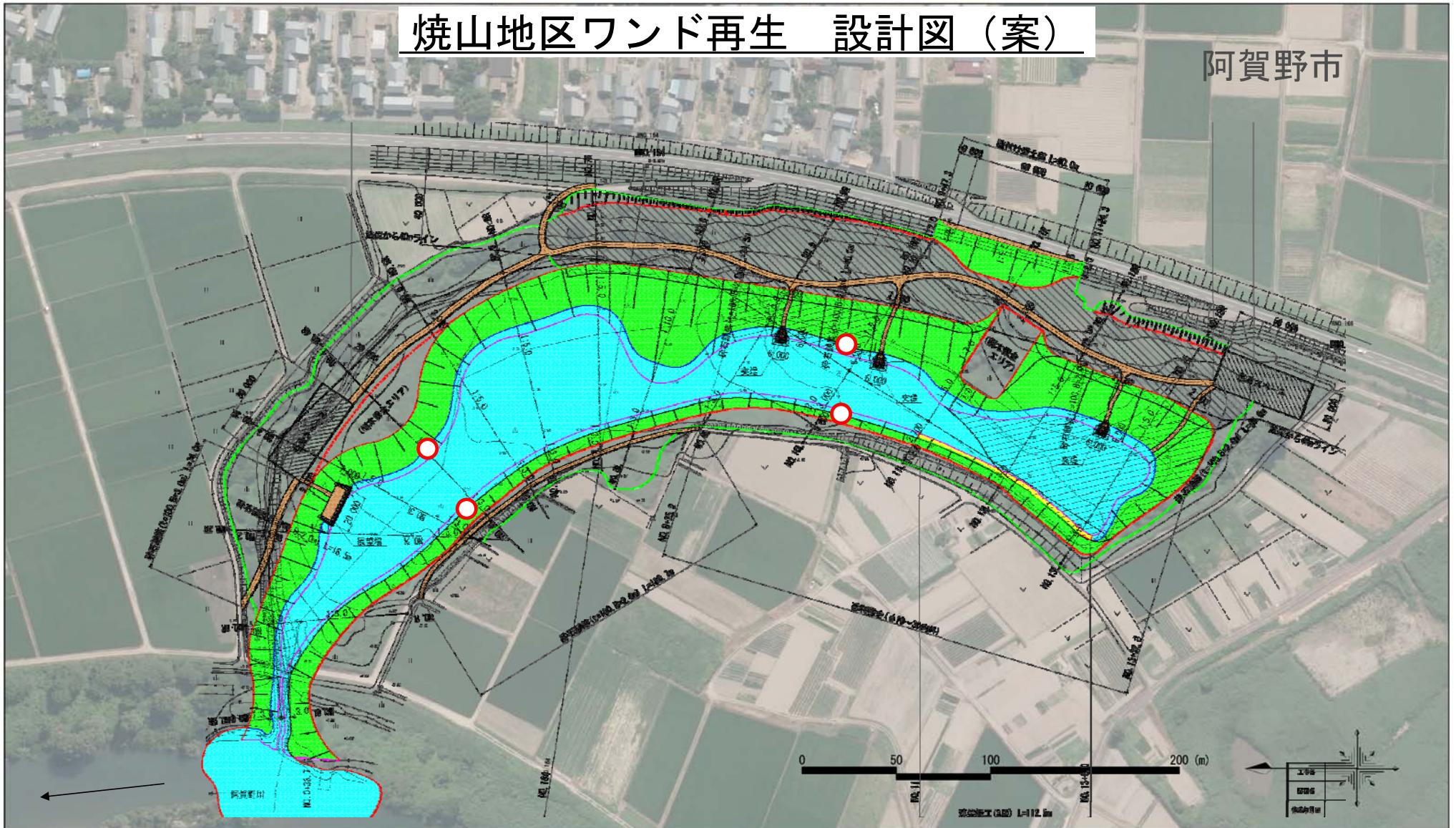
注記:「1:5」とは。
5m水平に進んで1m高くなる勾配のこと。
数が小さいと急で、大きいと緩やか。
現地の堤防は1:2。この数字に「割りわり」をつけて「2割勾配」と読む。

横断図

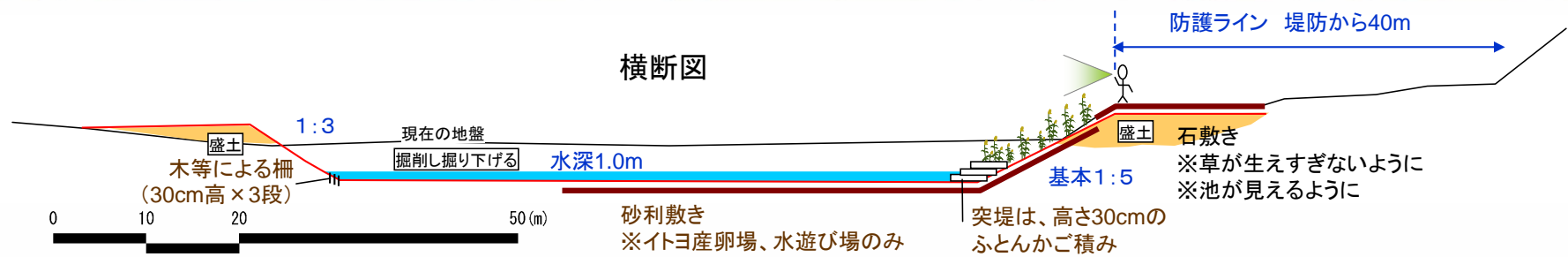


焼山地区ワンド再生 設計図 (案)

阿賀野市



横断面図



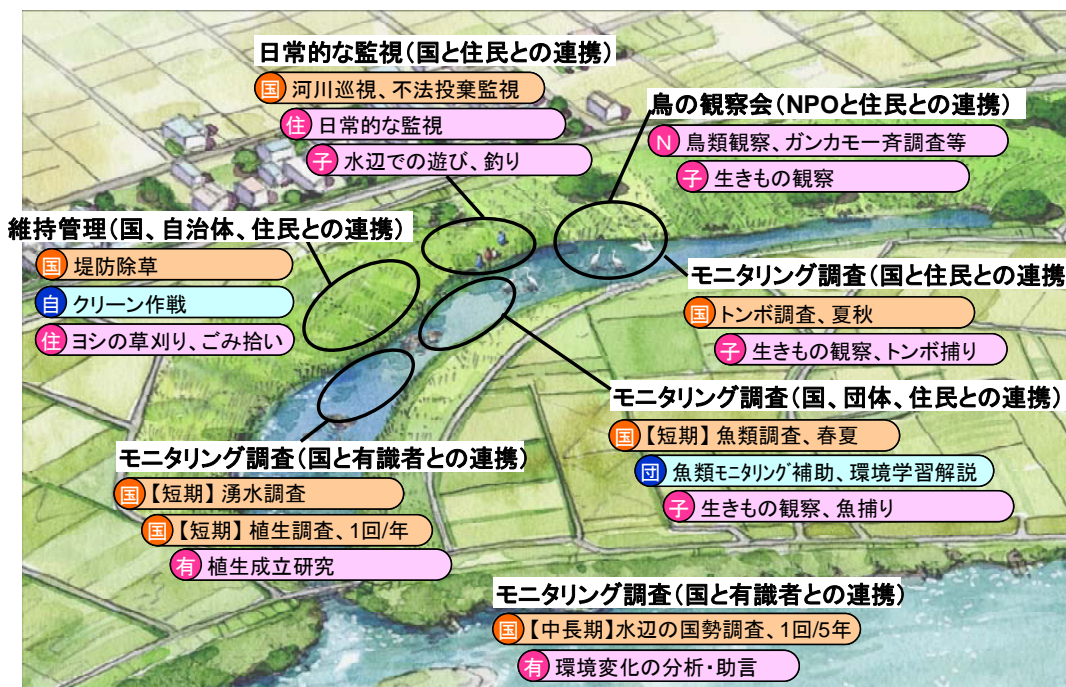


焼山地区ワンド再生イメージ (案)

第2回焼山地区ワンド再生懇談会でのご意見を踏まえ、関連機関での調査・イベントとのタイアップや、有志の方と協力することにより、住民の方に利用・認知いただける機会を設けたい。

自然をみんなで観察する

- 国交省のモニタリング調査と連動して、子どもたちによる簡易魚釣り調査を実施する。
- 魚類等の講師（学識経験者、NPO、漁業関係者など）を招き、「水辺探検 生きものさがし」調査を実施する。
- 鳥類や植物の講師を招き、焼山地区も含めて、蒲原地域の鳥類、湿性植物の観察会・勉強会を開催する。
- NPO等によるモニタリング調査（鳥類など）の観察サイトにいただき、経年的な変化を住民とともに観察していく。



水辺での遊びやイベントでの利用

- ・『おもっしえぞ阿賀野川』（10月）での、サテライトサイトとして魚釣りや船乗りなどを体験し、焼山地区の変遷などを通じて、阿賀野川の歴史を学ぶ。
- ・夏休みに、魚釣りやカヌー乗りなどの体験イベントを開催する。



阿賀野川自然再生事業での地域連携イメージ図



子ども達が参加する生きもの調査のイメージ（出典：左：五泉トゲソの会HP、右：関東地方整備局）